

【著者紹介】

みず たに り あき
水 谷 利 亮

下関市立大学経済学部教授，行政学／地方自治論

大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学
高知短期大学社会科学科助教授等を経て，2011年より現職

〔主要著書〕

「小規模自治体と圏域における自治体間連携—地方・『田舎』のローカル・ガバナンスの検討」（石田徹・伊藤恭彦・上田道明編『ローカル・ガバナンスとデモクラシー—地方自治の新たなかたち』所収）法律文化社，2016年

『限界集落の生活と地域づくり』（田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史との共著）晃洋書房，2013年

「地方自治と府県出先機関の機能」（村上博・自治体問題研究所編『都道府県は時代遅れになったのか？—都道府県の役割を再確認する』所収）自治体研究社，2010年

〔本書の執筆担当〕

序章，第1章，第2章，第3章，第4章，第5章，第6章，第7章

ひら おか かず ひさ
平 岡 和 久

立命館大学政策科学部教授，財政学／地方財政論

大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学
高知大学人文学部助教授等を経て，2006年より現職

〔主要著書〕

「地方財政の動向と改革課題」（平岡和久・自治体問題研究所編『新しい時代の地方自治像と財政—内発的発展の地方財政論』所収）自治体研究社，2014年

「福祉国家型地方自治のもとでの自治体財政の争点と将来」（二宮厚美・福祉国家構想研究会編『福祉国家型財政への転換—危機を打開する真の道筋』所収）大月書店，2013年

『検証・地域主権改革と地方財政—「優れた自治」と「充実した財政」を求めて』（森裕之との共著）自治体研究社，2010年

〔本書の執筆担当〕

第2章，第3章，第6章，第7章，終章